

# おくたま



わさびー

## 町の世帯と人口

5月1日現在 (前月比)	
世帯数	2,621 (3増)
人口	4,940 (9減)
男	2,481 (3減)
女	2,459 (6減)

## 人口動態 (4月中)

転入	20	転出	19
出生	2	死亡	12
その他	0	その他	0

2021.6月号 No.810 (令和3年6月5日発行)

●奥多摩町ホームページ <http://www.town.okutama.tokyo.jp/>



発行 奥多摩町 〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 215-6 代表電話 ☎0428-83-2111

# 奥多摩わさび塾 ～「奥多摩わさび」の継承～

奥多摩町の特産品である「奥多摩わさび」は、この地で古くから栽培が続けられており、江戸時代後半の文献に町内各地のわさび作りが記され、將軍家に献上したとも伝えられています。

現在においても、町の重要な農産物として、市場出荷はもとより、わさび漬けなどの加工食品としても販売され、町の代表する特産品でもあります。しかしながら、市場価格の

低迷や栽培者の高齢化・後継者不足、自然災害や野生動物による被害などの影響で、休耕となっている「わさび田」が増加し、生産量も減少している状況にあります。また、令和元年10月に発生した台風第19号では、沢沿いに点在するわさび田において、特に甚大な被害が発生し、これまでも復旧状況などについてお知らせしてまいりましたが、今なお復旧作業を進めているところがあります。

町では、平成14年度から、「奥多摩わさび」の継承・発展とわさび栽培の担い手の育成、栽培技術の伝承のため、奥多摩山菜栽培組合と協力して「奥多摩わさび塾」を開催しています。

奥多摩わさび塾は、4月から翌年10月までの1年6か月の間に、わさび田の改良から苗の植え付け、水の管理、病害虫対策、落葉除去、霜よけ作業などを行い、講習を通して育てた「わさび」を収穫して修了します。

昨年10月までに75名(14期生)が講習を修了し、この10月で5名(15期生)が修了を予定しています。

また、本年度は去る4月17日に開講式を行い、これから来年の10月まで、9名(16期生)がわさび栽培の技術を学びます。

わさびは日本原産の植物で、飛鳥時代の木簡(もっかん)がわさびについて記され

た最古の資料とされ、今のように薬味として利用され始めたのは室町時代といわれています。奥多摩で古くから栽培されているわさびの生育には、清らかな水が不可欠で多摩川の源流に近い当町は栽培条件に恵まれ、辛みが強く、キレの良さと豊かな風味が特徴のわさびが育ちます。

奥多摩わさび塾で栽培技術を学んだ受講生の中には、町内で休耕となっているわさび田を整備し、良質なわさびを栽培されている方もおりますので、今後一人でも多くの方が奥多摩わさび塾をきっかけにわさび栽培に携わっていただくよう事業を推進し、後継者の育成が図れるよう「奥多摩わさび」の継承に取り組んでまいります。

(写真はわさび田の改良の様子)

